

第1回熊本市動植物園マスタープラン推進会議議事録【要旨】

日時：令和4年（2022年）5月12日（木） 9：30～12：00

場所：熊本市動植物園いきもの学習センターレクチャールーム

議 事

- ・熊本市動植物園マスタープランについて
コレクションプランについて

《委員（出席者）》6名（1名欠席）※役職順、五十音順

- ・佐藤会長（神戸どうぶつ王国） ・飯村副会長（熊本県立大学）
- ・伊藤委員（東海大学） ・太田委員（市民公募）
- ・清家委員（公認会計士） ・副島委員（熊本大学）
- ・村上委員（株式会社ヒトコト社）

《事務局》

- ・永田部長（観光交流部） ・外山園長（動植物園）
- ・本田副園長（動植物園） ・松本副園長（動植物園）

議事録（要旨）

議 事

- ・熊本市動植物園マスタープランについて
コレクションプランについて

＜委員＞

くまもと花博期間は来園者も多く、これから目指す来園者数はもっと多いことから、もう少しキャッシュレス決済をうまくPRして、来園者をもっとうまくさばいていただきたいと思う。

＜事務局＞

今後、キャッシュレスの窓口を分かりやすく誘導するとか、将来的には券売機にキャッシュレス機能を備えるなど、今後混雑緩和を検討させていただく。

＜会長＞

学術的にも保全としても非常に価値のある収集方針かもしれないが、動物園として魅

力がある施設として考えた場合、少し選定種の中に、魅力が足りないのではないかと感じた。例えば、大型ネコ科を1種類は入れるなど検討した方がいいのではないかと。

<事務局>

十分な動物福祉が担保できるかというところが、今後飼育していくうえで課題となっており、動物福祉が担保できるもの、繁殖保全に寄与できるようなところの見通しがたてば、ご意見を参考に今後検討させていただく。

<委員>

植物についても、見応えがある植物など、そういった方針というか種を選定していただけたらうれしいなと思う。

<事務局>

魅力のある要素を見つけながら、このままではなく、コレクションプランを拡充していくということも考えているので、魅力のある展示ができるように、今後進めていきたいと思う。

<委員>

コレクションプランについては、保全や自然環境教育については、もっと良くしようということが感じるので、学習効果の高いものにしてもらいたいと思う。また、この動植物園が江津湖という場所にあり水辺の植物など生態系というものの魅力があると思うので、地味ではあるけれども、すごく魅力があるということなどの情報を発信できるような工夫をしていただきたいと思う。

<委員>

分かりやすいだけではなくて、なぜこれをやるのか、なぜこれを発信するのかということに関して、キャッチコピーのようなのを付けて、そのいきものの物語へ入っていくような発信をされていくとどうか。

<事務局>

動物や植物のことをどう伝えれば、興味を持って聞いてくれたり、目立たないものに対して、関心を持ってもらえるようにしたりすることが、動植物園の意義であると思っている。ご意見頂いたような伝え方を今後検討していきたい。

<委員>

植物に関して、絶滅危惧種Ⅰに分類されているスイゼンジノリは、化粧水に使われて

いると思うが、それで知名度を上げれば、保護に関する普及につながると感じるので、そういったものでアピールすれば、いいのではないか。

<事務局>

そのようなことを、きっかけにスイゼンジノリを知ってもらうことは非常に有効なことだと考えています。

<委員>

動物のコレクションプランの推進種が9つほどあるが、飼育歴が浅い動物が多いと感じるので、検討が必要だと思う。また、動物福祉の観点から、新たに動物を迎えることに関して、今いる動物の福祉が担保・評価されているかどうか気になる。それを考えると、減少・調整種の数が少ないという気がするがどうか。

<事務局>

コレクションプランを作るうえでは、動物福祉という観点を前提に策定している。しかしながら、種の保存という観点から、新たに動物を入れるべき種があるということも考えられる。その2つの観点を重要視して、コレクションプランを策定することとしている。また今後この分類は状況に応じ、変わっていくものと捉えていただきたい。

<委員>

トゲネズミやミヤコカナヘビなどの南西諸島の種について、熊本県は九州地区にあるので、ぜひそういうものに取り組んでいただきたい。どれもが絶滅危惧種で、保全評価の非常に厳しいので、より普及啓発につながるかと思うがいかがか。

<事務局>

当園もそれらの種の保存に力を入れるということは、非常に意義があることなので、次回コレクションプランをお示しする際に、検討させていただきたい。

<委員>

動物のコレクションプランにイヌワシが入っているが、九州にも野生のイヌワシが2羽いると思う。保全に取り組む団体等と連携を図りながら、飼育してもらいたい。

<事務局>

動物園という場所が動物園だけでおさまらず、フィールドで活動できるよう関係団体と連携することが、今後とても大切だと考えている。

<委員>

研究や教育を進めていくために、最新の情報を常に得るだとか、野生の生態がどうなっているのかなど、すべきことが多く、動植物園における体制の充実化を図る必要があると思うがどうか。

<事務局>

現在、組織体制については、検討しているところ。それに加えて、大学や関係機関と連携し、人材の育成を図ることが、今後の大きな課題となると思うので、関係団体との連携強化を、今後しっかり進めたいと思う。

<委員>

大学などと、月1回のミーティングなど、具体的な組織化をして、人材の育成を図った方がいいと思うがいかがか。

<事務局>

是非やらせていただきたいと考えている。しっかり連携して、関係機関から学びながら、我々も成長して、育成していかななくてはならないと思っている。

<委員>

このコレクションプランは意識がとても高く、これが実現できれば、熊本市民にとっても、自慢できる施設になる。この取り組みを、実現してほしいと思うので、是非進めていただきたい。熊本博物館など個々の施設が連携していくとことで、全体として熊本の自然を発信できるようにしていくといいと思う。

<事務局>

植物においては、今回コレクションプランに選定して、もっと学術的価値を高める取り組みを進める予定としている。時間はかかると思うが、自然の博物館という大きな目標に向けて、進めていきたいと思う。

<副会長>

コレクションプランそのものを、電子書籍化して、熊本市内の小中学校のiPadへ配信し、うまく学びにつなげていくことも、十分考えられるだろうと思う。また、子どもたちも一緒にコレクションプランを考えていくような場を設け、子ども達が考えた、種が新しく入るなどすれば、教育の場の具体的な提供の1つになるのかなと思ったので、1つの提案として検討していただきたい。

総括

<会長>

今日の議論を踏まえ、コレクションプランそのものをもっとブラッシュアップされると思う。ご意見があったような、教育戦略などは、実際すぐに実施していただければと思う。